

市長所信表明

市議会6月定例会において、
渡辺竜五市長が所信表明演説を行いました



私にとって市長就任後、初めての定例会でありますので、今後の佐渡市政を運営するに当たりまして、所信の一端を申し述べさせていただきます。市議会議員各位と市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

先の佐渡市長選挙において、市民の皆さまから温かいご支援をいただき、市政運営を担わせていただきましたこととなりまして。今、この議場に立ち、改めて「歴史と文化が薫り、自然と人が共生できる美しい島 佐渡」を未来に継承し、発展させなければならぬ重責を強く感じるとともに、一歩ずつ前にしっかりと進めていくという決意を新たにしているところでございます。

私は生まれも育ちも佐渡島でございます。旧相川町役場に奉職し、佐渡市合併後も佐渡市職員として、農業、総合政策、総務、病院、教育委員会と多くの部署で仕事をさせていただきましたきました。在職中は多くの市民の皆さまや佐渡市役所の先輩や同僚などに大変お世話になりましたが、皆さま方からのご指導、ご鞭撻により36年間仕事をさせていただいたことに改めて感謝申し上げます。

私自身が佐渡を元気にする仕事に取り組みたいという思いを強くしたのは、やはりトキの野生復帰と佐渡米の再生への取り組みであります。

放鳥を前に、自然下での生息環境の整備の遅れと佐渡米の販売不振、その2つの大きな課題への挑戦がトキ認証米でした。生物多様性条約締約国会議の国内開催など国家プロジェクトと共鳴し、トキの野生復帰と佐渡米のブランド化が順調に進んだ結果、佐渡が日本で初めて世界農業遺産に認定されました。多くの市民や国内外の皆さまのお力により、佐渡が日本のモデルとなり得たことで、島は光り輝きました。もう一度その輝きを取り戻したいと考えております。

今、佐渡市は人口減少、経済の縮小に歯止めがかからない状態であることに加え、新型コロナウイルスという見えない脅威により、いまだかつてない地域経済の疲弊と、先のない不安に苛まれている状態です。まずは新型コロナウイルスに立ち向かい、新しい生活様式を軌道に乗せなければなりません。島に新型コロナウイルスを入れない、もし感染者が発生しても、新潟県と連携した押さえ込みの対策や医療体制の確保を徹底することにより、市民の皆さまの安全を確保していきます。

また、佐渡にお越しいただける皆さまにおいても、新しい生活様式に基づくガイドラインなどに沿った対応をお願い申し上げます。安心してお越しいただける島の構築に

精一杯取り組んでまいります。

そのため、本年度は市民の皆さまの暮らしを守る安全・安心の構築と併せて、国、新潟県の事業や交付金の最大限の活用、佐渡市予算の組み替えなどにより効果的な対策の実現を進め、佐渡を元気にする経済の再生を確実に進めてまいります。

まずは、通常の生活を取り戻すことを最優先とし、経済の再生と雇用の確保を進めることが、私自身が考える子どもからお年寄りまで安心して笑顔で暮らし続けることができる島、賑やかで元気な島づくりの第一歩であると考えております。

また、新型コロナウイルス感染症に対応した新しい社会づくりは、東京一極集中の本社機能の分散化、働き方の見直しによる地方や家庭での勤務体制の確立など、賃金や便利さが優先される都会生活から、自然環境や文化に囲まれた田舎生活への意識の変化など、都市から地方へ目が向く大きな変革をもたらすことが予想されます。

その現状を注視し、都市から人や企業を受け入れる大きな流れを手繰り寄せるため、迅速な情報収集などにより、スピーディーに対策や政策立案ができるような弾力的な組織を構築しなければなりません。そのためには、職員の士気と意欲を高め、市役所を元気ある組織とすべく、研